

第 21 回 サテライト・サービス番組審議会議事録概要

1. 開催日時

令和 4 年 12 月に開催予定であったが新型コロナウイルス感染拡大予防の為、審議は書面による意見交換で行なった。

2. 参加者

委員長：吉岡忍

委員：竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、砂川浩慶、宮崎美紀子、笹田佳宏、長谷川晶一

株式会社サテライト・サービス：加藤浩輔、福本洋、窪田正利

JCOM 株式会社：斎藤弘之、木村秀行

株式会社フジテレビジョン：岡本栄史

3. 議題

- 1) 『サッカーW杯を売った男たち』 ディスカバリーチャンネルで放送
- 2) 『NEWS 小山のおしゃキャン! どう?』 フジテレビ TWO ドラマ・アニメで放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

1) 『サッカーW杯を売った男たち』

- ・ ワールドカップで世の中が浮かれている時に、こういう番組を放送したことを高く評価したい。冒頭、開催国決定の発表にカタル関係者が歓声を上げる場面に、五輪招致の「TOKYO!」の瞬間の歓喜を思い出した。
- ・ 日本中、世界中を沸かせるワールドカップが現在行われているが、その輝く舞台の「裏側のヤミ」に光を当て、実に興味深いコンテンツに仕上がっている。2人の新聞記者を中心に番組は制作されているが、「ヤミ」に実存する人物達も出演させる事で内容をさらに面白くさせている。そして何より、サッカー界に限らず、あらゆるスポーツ団体等に於ける「ヤミ」を連想させるところに、このコンテンツの重要性を感じる。
- ・ いま世界で何が起きているのか、どんな地殻変動で世界の勢力図は変わろうとしているのかを、スポーツの面から視聴者が考える、格好の素材であると言えます。そういう意味では、たいへん時宜を得た企画と言えらると思いました。

- ・ 報道の端緒となった『サンデータイムズ』、そしてこの番組を制作した「ディスカバリーチャンネル」の報道姿勢も、見ていて気持ちよかった。閉塞する現状の日本を鑑みたときに、「不正は必ず糺されるのだ」という勧善懲悪のスタンスはとても心地いいものだった。
- ・ サンデータイムズ紙は当初、アメリカ招致関係者に“扮して“アフリカの理事らに面会し、賄賂の相場などを聞き出したという。取材倫理上、これが許容範囲かどうか、という問題があるが、事案追及が重大な公共的意味を持つという「必要性」、その場ですぐに取材しなければならないという「緊急性」、ほかに手段がないという「非代替性」の3点が満たされるのであれば、通常にはない取材手法を採ってもよい、と思われる。
- ・ 招致運動を有利に進める、あるいは放映権の獲得等々をめぐって、カネが飛び交い、破格のプレゼントや接待がおこなわれる、というワールドカップをめぐる汚職の構造がよくわかる。ストーリー展開は、きわめて速く、メモをとりながら見るのがむずかしいほど。いかにも欧米流のテレビ・ドキュメンタリーの印象。日本のドキュメンタリーのテンポとはまったく違う。テーマにもよるが、日本の制作者の参考になるのではないか、と思う。
- ・ 海外ドキュメンタリー独特の作りが日本の報道番組の定番スタイルとは違って面白。追及する側（攻める側、正義の味方）も追及される側（いわゆる悪役）もカメラ目線で蕩々と語るのも、どっちが「悪いことしている人」なのか区別がつかない。
- ・ 番組制作的には一切、モザイク、首無しインタビューがないことに、改めてドキュメンタリーの映像手法を考えた。被取材者にとって顔出しインタビューは覚悟もいる、特にSNS全盛の昨今であればなおのことだろう。その中で素顔を晒すことで真実性が増すことを実感した。そのためには、被取材者との時間をかけたコミュニケーションの成立が不可欠である。日本のドキュメンタリーにも改めて考えて欲しいテーマだ。

※委員からの質問・意見に対し、株式会社ワーナーブラザーズ・ディスカバリー・ジャパンから回答

【意見】

ブラッター氏の汚職よりも、周辺で暗躍する黒幕や、直に手を染めた会社などを追求する視点が必要不可欠なのではないか。曖昧模糊なブラッター氏に怒りと憎しみをぶつけているばかりでなく、利権によって、巨大収益を吸い上げる組織へメスを入れてみるような切り口が、いまは求められていると思います。

【回答】

後編ではテレビ局やマーケティング会社も絡んだFIFAとのお金の流れについて取り上げていきますので、ぜひご確認いただければと思います。

【意見】

これは見方によって、180度違う番組だと思う。

まず、エンターテインメント番組として見ると、実に秀逸。テンポはいいし、あおりも心地よいし、問題提起もわかりやすいし、スパイ映画のようなサスペンスもある。

しかし一方、報道系のドキュメンタリー番組として見ると、いささか懸念を持たざるを得ない。まず、FIFA 幹部の金銭授受が重大事件であるように描いているが、どこの国の何の法律に違反しているのか明示されていないので、誰が何の罪をおかしているのか、伝わってこない。番組のなかでFIFA 幹部がお金について、あけすけに語っていたのは、「倫理違反だけど、法律違反ではない」と思っているからではないか？このあたりが、はっきりしないと、報道色のある番組としては、どうなのかなと思った。

【回答】

確かにその点は説明不足かもしれません。後編では米国の IRS（内国歳入庁）の犯罪捜査官が出てきて米国の FIFA 理事を脱税容疑で追っていることが語られていますが。それ以外のところは個人の具体的な容疑よりも組織ぐるみの不正を描くことに主眼が置かれています。

【意見】

取り上げている事象に多くの人々に関わる性質上、致し方ない側面もあると考えるが、FIFA やサッカーに詳しくない視聴者にとっては、登場人物の位置づけが分かりにくいのではないかと考える。若干の説明を加えるとより一層、問題の本質や課題への理解が多くの視聴者に伝わったと考える。また、登場人物の肩書・氏名は日本語表記を入れて欲しかった。

【回答】

登場人物が多い割には人物紹介が少なく、分かりにくくなっているのはご指摘の通りだと思います。弊社のリニア放送では日本語データ（字幕・吹替）を映像素材に焼き込まずに別々に送出する方式を採っているため、その分、必要に応じて吹替音声や会話の字幕の中で肩書・氏名などの情報を補足するようにしています。

【質問】

FIFA 理事などに招致のためには賄賂が必要だとする証言は、サンデータイムズが隠し取りをした映像を使用していると捉えているが、そのほかのブラッター氏会長、FIFA 広報担当、カタール招致委員会広報担当などの証言映像はディスカバリーの独自取材なのか。

【回答】

ディスカバリーのオリジナル作品ですので、独自取材です。

【質問】

渦中の中心にいるブラッター氏が登場し、相変わらずのりりくらしとしたコメントを残していることも見どころでした。彼は6年間の停職処分を受けましたが、停職期間中の取材だったのか、停職明けの取材なのか？

【回答】

この番組が制作・公開されたのは2021年10月で、ブラッター氏は2028年までの追加の活動停止処分を受けているので、停職中の取材と思われます。

【番組全般について】

当番組をご視聴・審査していただき誠にありがとうございます。

ワールドカップで世間が大いに盛り上がっているときにFIFAと世界最大のスポーツイベントの間に焦点を当てた番組を放送することはリスクではありましたが、グローバルな視点でのドキュメンタリーを制作・放送し続けている専門チャンネルとしては意義があることだと考え、あえてこの時期の放送を企画しました。

この番組はUSの配信サービス「Discovery+」のために制作されたディスカバリーのオリジナル作品で、前後編の2話からなります。今回、前編だけを審査対象とさせていただきましたが、後編も含めて視聴しないと全体像が分からない部分があったことはご指摘の通りで、配慮が足りませんでした。後編もご視聴いただくと幸いです。

委員の皆様からは取材方法や番組のスタイル、汚職の構図、日本のメディアへの問題提起、地政学など実に幅広い視点からご意見・ご指摘を頂戴し、大変勉強になりました。この番組を通してマスメディアの報道しないワールドカップやスポーツビジネスの裏側について多くの人が様々な意見を持ち、議論が活性化され、同時に海外ドキュメンタリーに一層の興味を持っていただけたら嬉しい限りです。

2) 『NEWS小山のおしゃキャン! どう?』

- ・ キャンプの経験はかなりあるが、「おしゃキャン」とは何と意思ながら視聴した。テント設営などの煩わしさから解放し、快適さも兼ね備えた“良い所取り”の「おしゃキャン」。キャンプの楽しみ方も人それぞれで多様化していると感じさせる番組であった。
- ・ 小山さんの魅力全開で、とても楽しく見ることができた。キスマイ二階堂さんとのからみも新鮮だった。NEWSの3人の内輪話の「3人でこれからどうする」も鉄板で面白い

が、それをキスマイ二階堂としているというのが、視聴者にとっても楽しめたと思う。

- ・ NEWSメンバーが、当初の9人から現在の3人に減っていく。小山が「9人で航海していて、ときどき港に着いて、1人、2人と降りていった感じ」と語ったのには、実感がこもっていた。対して、キスマイのほうは脱退者ゼロ。「無理しない」「仲良くしよう・見せようとは思わない」と。いずれも視聴者・ファンなど誰もが日常的に経験し、感じていることでもあるだろうが、キャンプ場の夜のおしゃべりという場が、スタジオのトークなどとはちがう、本心からの語りを生み出したのではないか。どちらのファンにとっても、その場に立ち会っているかのような魅力的なシーンになっていた。
- ・ タイトルからして最近流行りの「アウトドアのおしゃれな過ごし方」的な内容を想像していたが、反対に「インドア」的なトークバラエティに終始していた。選んだキャンプ施設があまりにも常識的な「キャンプ場」とかけ離れていた事もあるが、それにしても「キャンプ」本来の魅力である「アウトドア」＝「自然の中での生活」の映像に乏しく、結果、内容はトークに趣を置くと云う、キャストینگありきのターゲットに向けたありがちな「セーフな番組」に終わっている。であれば、アウトドアだから話せる「本音トーク」が聞きたいところだが・・・。
- ・ ファン以外の層から見ると何かしらのプラス要素が欲しい。「お洒落」と「ワイルド」という図式はありきたりだし、食材にこだわるなり、キャンプ場そのものの利用方法の紹介なり、ファン以外の視聴者も「プラス」と感じる項目を盛り込んで欲しい。
- ・ キャンプの魅力の半分くらいは、大自然と触れ合う事なのですが、それが全くなかったの、残念。溪流や山道を歩く小山さんのカッコよさや、得意の理屈っぽい言い訳も可愛いだろうなあと期待していた視聴者もいたのでは。何より大自然のなかでイケメンが動く、美しい映像が見られなかったのは残念だ。
- ・ 番組の感想としては、「アイドル番組としても、実用番組としても中途半端だな」という印象でした。これは『アメトーク!』全般に言えることですが、「マニアが熱を込めて語る対象への愛は、よく知らなくても面白い」という魅力に満ちています。「おしゃキャン」には、その要素が皆無でした。
- ・ キャンプに関してのうんちくを述べたいのか、2人の人生の関係性を語り合いたいのか、どちらかへ焦点を絞った方が賢明だったのではないかと思う。確かに登場するキャンドルやテントサウナのような興味深いスペックも多々あったが、それならそれに関して、どのくらいの金額で買えるのか、といった情報を掘り下げてもよかったのではないか。
- ・ 小山さんと二階堂さんの持ってきたキャンプグッズは秀逸で、誰もが興味惹かれたと思います。でも、実際には使用せず、調理にも使いませんでした。あれだけちゃんとグッズ紹介したのですから、前菜だけは持参グッズで調理するといったシーンは欲しかった。

- ・ 今、ジャニーズの中のタレントは今後どうなるんだろうと、興味を持っている視聴者は沢山います。そのタイミングで、こうしたグループの枠を超えた企画が出てくるのが、とても新鮮だった。今だからこそその企画だと視聴者は感じたと思う。
- ・ キャンプ番組ではなくアイドル番組。キスマイ二階堂とのプライベートトークは、ジャニーズファン以外には興味を持たれないのでは。ただ、第二回（FODで視聴）はキャンプギアのこだわり、設営のこだわりなどが出ていて初回よりキャンプ番組らしくなっていた。このままアイドル番組にとどまるのか、徐々に男性にも一目置かれる趣味番組になるのか、今後注目したい。

※委員からの質問・意見に対し、株式会社フジテレビジョンから回答

【意見】

食材買い出しは、「予算内に収められるか」が唯一の引っ張り要素ですが、その「予算2万円」を、最初にテロップで小さく入れているだけなので、まったく注意が行かず、いったいいくら以内なのかわからない。

【回答】

この番組は地上波のGP帯のバラエティというよりは、深夜番組でふたりが素でキャンプを楽しむところをふんわりほのめき見するような演出を心掛けており、正直金額制限はあるものの、それもふたりのやり取りの材料として使っているに過ぎませんので、そこをことさら強調するようなテロップの出し方はあえてしなかったのですが、そのような演出意図と反して番組全体として内容を詰め込み過ぎてしまったのかなと反省しております。

【意見】

最後の2ショットトークは、いきなり始まったのかもしれませんが、やはりこれだけ長いのでしたら、小山さんの顔が真っ暗になっているのは、残念。

（同意見複数あり）

【回答】

最後の「トーク延長戦」の演者の顔が見えないという箇所ですが、風呂とサウナのくだりのあとなので、おふたりはノーメイクになっており、しっかりと顔を写すことができない状況での撮影でした。しかしこの状況だからこそ普段は話さないような裏話が引き出せたと自負しております。

【番組全般について】

貴重なご意見、誠にありがとうございました。

この番組は、ジャニーズ事務所サイドからNEWS小山氏が最近キャンプにハマっているという情報を得、「それなら“現在巷で流行ってきているキャンプ”を小山氏目線でアピールする番組ができればいいですね」という事務所担当者と私の間での何気ない会話が発端となり、そのうえで番組として成立させるならジャニーズのグループの枠を超えた番組をやりたい、また地上波の番組として一般の視聴者の方も楽しめる内容だけでなく、FODとCS放送フジテレビTWOの、ふたつの有料サービスのコンテンツとして特典映像などを満載の番組にしたい、という様々な狙いをもった内容として立ち上げ、まずはパイロット版として制作をしました。

ご指摘のように「どっちつかずの中途半端」というのはまさにこの命題をすべて叶えるべく内容調整した結果であり、そういう意味ではご指摘の通りかと認識しています。

また、今回は初の収録でかなり内容詰め込み過ぎてしまい、いわゆる「キャンプの番組」としてのわかりやすい部分は少なくなってしまったのかなと反省しております。

その一方で、あえてこのパイロット版ではご指摘のとおり「ファン向け」の内容を優先しています。一部の委員の方にはすでにご覧いただいたように、二回目の放送ではキャンプ場をもっとアウトドアに寄せて、ふたりのキャンプスタイルをしっかりと見てもらう内容になっています。今後は回を重ねるごとに、キャンプの色々な側面を深く掘り下げていきたいと考えています。

小山さんのキャンプギア（道具）は本格的でレアなものが多く、放送をご覧いただいたキャンプ愛好家の間でも話題になっているということです。また、小山さんは先日「キャンピングカーアワード」を受賞なさるなど、この業界でも認められつつある存在となってきています。小山さんのコアなキャンプ情報という側面と、ファン向けの内容としての側面の、両方のバランスを探っていくような番組をめざしたいと思います。今回いただいた貴重なご意見を参考に番組作りに活かさせていければと思います。

4. 次回予定

令和5年3月中の開催を予定。審議対象番組は調整中。

以上